

AP療法を受けられる方へ

●AP療法とは、ドキソルビシンとシスプラチンの2剤を組み合わせた子宮体癌に対する治療法です。

投与スケジュール

1日目	2日目以降
ドキソルビシン	休薬期間
シスプラチン	

←—————→
1コース(3週間)

3週間を1コースとして、通常6サイクル繰り返します。

主な副作用と発現時期

次のような症状があらわれたら、医療スタッフにお知らせください。
※ 個人差があるので、その他の副作用についても十分注意して下さい。

治療当日～数日	●吐き気・嘔吐 ●腎障害 ●赤色尿 ●血管痛・静脈炎
治療数日～数週間	●吐き気・嘔吐 ●下痢 ●倦怠感 ●白血球減少 ●血小板減少
数週間～数か月	●脱毛 ●貧血 ●しびれ ●心筋障害

◇白血球減少:発熱、寒気、咳、のどの痛み、頭痛

38℃以上の発熱がみられた場合は、すぐに受診してください。

外出時はマスクを着用し、人ごみを避けましょう。
手洗い、うがいをこまめにしましょう。

◇血小板減少:血が出やすい、アザができる

血小板は血液を固める働きがあるため、減少すると血が止まりにくくなります。
ケガや転倒・打撲には十分注意し、歯磨きや鼻かみは優しく行いましょう。

◇赤色尿

投与後は尿がピンク・オレンジ・赤色になりますが、問題ありません。

◇血管痛・静脈炎:血管の痛みや腫れ

点滴中および投与後に、注射部位が痛んだり腫れてきた場合はすぐにご連絡ください。

◇下痢

1日4回以上の排便や水様便がみられた場合は、医療スタッフにご相談ください。スポーツ飲料などで水分補給し、おなかを温かくして安静にしてください。

◇心毒性

頻脈、胸痛、呼吸困難、下肢のむくみがあらわれた場合は、受診してください。

◇吐き気・嘔吐

投与を受けて1週間後には楽になっていきます。なるべく水分を取るようにし、消化の良いものや食べたいものを少量ずつ食べましょう。

◇腎障害:頭痛、尿量の変化、むくみ、ふるえ、痙攣

腎障害は一度起こると重症であることが多く、治療を続けられなくなることがあります。

投与後数日は水分をできるだけ多く取り、尿量を増やすことによって予防できます。

頭痛、尿量の変化、むくみなどの症状が出た場合は医療スタッフにご相談ください。

◇脱毛

髪の毛やからだの毛が抜けることがあります。治療が終了すればまた生えてきます。

低刺激性のシャンプーを用いるなど、頭皮への刺激を極力避けるようにしましょう。